



学校教育目標	中期的目標	短期的目標	評価指標	中間評価	最終評価	評価	分析・改善策	学校関係者評価
力を合わせて高め合う子	自己肯定感をもち、友達と互いに磨き合い高め合う心を育てる。	人との関わりを大切にされた教育活動を展開する。(特活)	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童のふりかえりにおける「にこにこ活動・クラブ活動・委員会活動で他学年と交流することが楽しい」の肯定的評価が多い。</li> <li>教員アンケートにおける『にこにこ活動の充実』の肯定的評価80%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>にこにこ活動のふりかえり、クラブや委員会の振り返りシートで肯定的な感想が非常に多かった。</li> <li>教員のアンケートでは、「にこにこ活動の充実」の肯定的評価が100%に達した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上学年は友達と協力し、下学年を楽しませる充実感を味わうことができている。下学年は上学年と関わる楽しさを感じている。委員会やクラブ活動では、6年生がリーダーシップを取ることができるよう事前指導していることや、教員による温かな声かけが効果を上げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り関係がよくできている。下校時でも他学年と一緒に帰っている姿をよく見る。</li> <li>クラブについてもホームページを通して保護者に伝えられていてよい。</li> <li>校内に掲示してある委員会とクラブのホワイトボードにより、他学年や保護者に活動内容が周知できている。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>日常及び学校行事における学年交流を充実させる。1学期1年生との「なかよくなるう集会」、2学期2年生との「もっとなかよくなるう集会」を通して、互いの理解する姿やすすんで関わろうとする姿がみられる。</li> <li>教員アンケートにおける「特別支援学級との交流等」の肯定的評価が90%以上</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1・2年生と特別支援学級の交流は、年間を通して計画的に行われている。その他の学年においても、随時交流を行っている。</li> <li>教員アンケートでは、「特別支援学級との交流等」の肯定的評価が100%に達した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事(運動会・学習発表会・宿泊行事等)では、担任同士が連携し、児童の実態を考慮した上で積極的に交流を行っている。計画・実施・振り返りを行うことで、よりよい交流につながっている。良好な関係を築くことができおり、交流の幅を広げられるよう、保護者の意向も踏まえ柔軟に対応している。</li> </ul>	
		互いの生命、人格を尊重した人権教育を推進し、豊かな人間性を育む。(生活)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開での保護者アンケートにおける「道徳教育について」並びに「本校の道徳教育について」の肯定的評価80%以上</li> <li>教員アンケートにおける「道徳授業の充実」の肯定的評価80%以上</li> <li>保護者アンケートにおけるいじめへの学校の対応についての肯定的評価が85%以上</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育地区公開講座の保護者アンケート肯定的評価いずれも95%以上</li> <li>教員アンケートにおける「道徳授業の充実」の肯定的評価100%</li> <li>保護者アンケート「事故やトラブル等に対して誠意とスピード感をもって対応している」肯定的評価は97%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童同士のトラブルが起きた場合の素早い対応について、保護者から高い評価を得ることができた。管理職や生活指導部のリーダーシップのもと、全教員が初期対応や児童の様子を細やかに見取り、行動に移すことができている。さらに、年3回いじめに関する研修の中で、組織的対応の役割や手順について全教員で共通認識を高めている。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおける「あいさつ」、「きまりを守る」、「言葉遣い」ともに肯定的評価80%以上</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「あいさつ」「きまり」「言葉遣い」ともに肯定的評価80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活目標で全校児童に意識をもたせると共に、日常的なクラス指導や看護当番による指導が効果を上げている。特に言葉遣いについては、学校の指導だけでなく家庭との連携をさらに深めていく。</li> </ul>		
思い切り体を動かし元気な子	自己の最善を尽くし、運動する喜びを味わう体を育てる。	健康でたくましい児童の育成を図る。(体育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童への食育に関するアンケートにおける、「食に関する意識」、「生活習慣」での肯定的評価、80%以上</li> <li>教員アンケートにおける「給食に関する指導」の肯定的評価80%以上</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童への食育に関するアンケートにおける、「食に関する意識」、「生活習慣」での肯定的評価87%達成</li> <li>教員アンケートにおける「給食に関する指導」の肯定的評価100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスに給食目標を掲示し、給食の時間に毎日放送することで、児童に目標を意識させることができた。</li> <li>廊下に食育関連のポスターを掲示したり、こんだてメモ(給食センター作成)を活用したりすることで、児童の食に関する意識を高めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育推進・給食ステーション見学も参加したい。</li> <li>体力向上の取組では、一律的なものではなく、それぞれの児童に応じた目標を立てられるようにしたい。</li> <li>児童が自分から運動することを楽しめるような取組を続けてほしい。</li> <li>ホームページの食育の部分も、さらに充実させてほしい。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの結果を都と比べ、全学年2項目以上、上回る。</li> <li>運動に対する意識調査の結果で肯定的意見の児童数を学級の85%以上</li> </ul>	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの結果を都と比べ、全学年2項目以上、上回っている。</li> <li>前年度に比べ運動に対する肯定的意見が3%増えていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力向上旬間では、各学級や個人でめあてをたてることで、児童がすすんで取り組む姿がみられた。</li> <li>マラソンカードを活用することで、自分の取り組みが視覚化され、目標を意識しながら取り組んでいた。</li> </ul>	

Aよくあてはまる・達成率80パーセント以上である。

Bややあてはまる・達成率60パーセント以上である。

Cあまりあてはまらない・達成率は約60パーセント未満である。